

# プロフェッショナルリハビリテーション第4号

## 「腰椎疾患の評価と運動療法」 正誤表

最終更新日:2017年6月15日

「腰椎疾患の評価と運動療法」 Version1.0に誤りがありました。  
深くお詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

ページ	該当箇所	誤	正
3頁	本文10行目	下椎間突起	下 <b>関節</b> 突起
4頁	図2 解説3行目	下椎間突起	下 <b>関節</b> 突起
4頁	図3	終板	<b>椎間板</b>
5頁	本文1行目	椎体終板	<b>髓核</b>
7頁	本文2行目	椎体間関節	<b>椎体関節</b>
7頁	本文6行目	下位腰椎	<b>上位腰椎</b>
7頁	本文6行目	上位腰椎	<b>下位腰椎</b>
9頁	本文14行目	陥屯	<b>嵌頓</b>
11頁	本文5行目	表層	<b>浅層</b>
14頁	本文5行目	乳様突起	<b>乳頭突起</b>
14頁	図13	表層線維	<b>浅層線維</b>
14頁	図13 解説2行目	乳様突起	<b>乳頭突起</b>
14頁	本文17行目	腸骨と第12胸椎椎体	<b>腸腰胸肋線維</b> は腸骨と第12胸椎椎体
15頁	本文6行目	12肋骨	<b>第12肋骨</b>
25頁	図22	基本軸	<b>基準軸</b>
25頁	図22 解説2行目	移動軸	<b>運動軸</b>
31頁	本文1行目、3行目	攣縮筋	<b>筋攣縮</b>
31頁	本文1行目、6行目	短縮筋	<b>筋短縮</b>
31頁	図25 タイトル	表層線維	<b>浅層線維</b>
32頁	本文1行目	0°	<b>0~20°</b>
33頁	本文10行目	第3腰椎棘突起	第3腰椎 <b>横</b> 突起
33頁	本文12行目	前腸腰靭帯	<b>上</b> ・前腸腰靭帯
33頁	本文15行目	後腸腰靭帯	<b>上</b> ・後腸腰靭帯
38頁	図33a	バンド	<b>ゴムバンド</b>

深層線維は、両股関節の屈曲角度が上位腰椎では $0^{\circ} \sim 20^{\circ}$ 、中位腰椎では $45^{\circ}$ 、下位腰椎では $90^{\circ} \sim 100^{\circ}$ の側臥位とする。この肢位により、対象となる椎間関節の関節面が体幹軸上に対して平行となる。上方脚の骨盤を把持し、牽引操作は体幹軸上の延長線に加えていき、リラクセーションとストレッチングを適宜行う（図26）。



●動画解説⑥

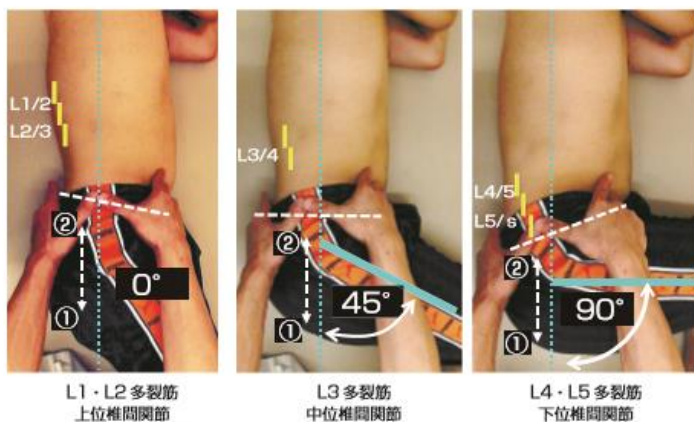


図26 多裂筋（深層線維）と椎間関節の治療の実際

深層線維は、椎間関節の関節面が体幹軸上に平行となるように両股関節の屈曲角度をそれぞれ合わせる。把持した骨盤を、体幹軸上の延長上に牽引を加えることで伸張し(①)、その後、等尺性収縮を行い、最後は求心性収縮を促す(②)。この操作を繰り返し行うことで、椎間関節の可動性を徐々に拡大させていく。